

F★★★★★

ホルムアルデヒド放散等級



外壁



弱溶剤



1液

ツヨク、  
ウツクシク、  
スマイヨク。

# PERFECT SERIES

ファインパーフェクトトゥルーマット

## FINE PERFECT TRUE MATTE

ターペン可溶1液ラジカル制御形ハイブリッド高耐候性つや消し塗料

# ファインパーフェクトトゥルーマット

上質な  
マット感

高い  
耐久性

すぐれた  
仕上がり性



NIPPON PAINT

Basic & New

ツヨク、  
ウツクシク、  
スマイヨク。

## FINE PERFECT TRUE MATTE

### 真のつや消し弱溶剤塗料 ファインパーフェクトトゥルーマット

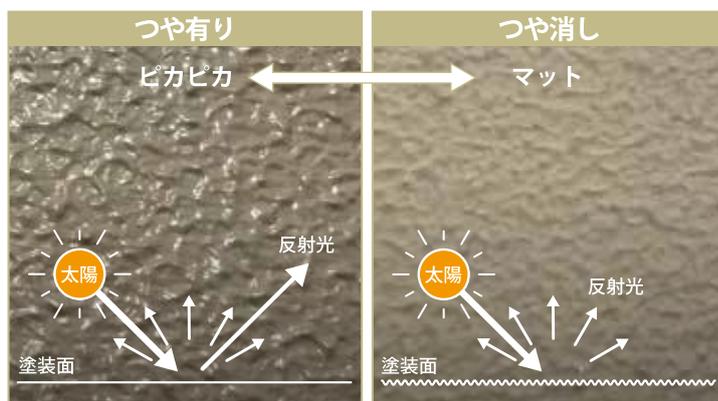
落ち着いたマットな質感で、上品な雰囲気 연출。周囲の環境とも馴染みやすく、ナチュラルなイメージに仕上がります。つや消し塗料で不安視されがちな、高耐候性や低汚染性についても優れた性能を発揮します。

## そもそも「つや」とは？

光を塗膜に当てると、光は様々な方向に反射します。その中でも正反対方向に反射する光の量が多いとピカピカとした「つや有り」、少ないとマットな「つや消し」と呼ばれる状態になり、見た目の印象が変わります。

つや有りを外壁に塗るとピカピカした塗りたての新しい印象を受けますが、その一方で経年劣化とともにつやが失われる傾向があります。

一方つや消しは落ち着いた雰囲気、マットな状態が変わることなく、上質な印象が長く続きます。



## こんな場所にはファインパーフェクトトゥルーマットがおすすめです

- つや消し外壁の塗り替えに。当社インディアートセラやスタッコ、リシン仕上げなど。
- サイディングボードの塗り替えに。例えば金属サイディングへの塗装などもオススメです。
- 一般鉄部や付帯部に、外壁と合わせてマットに仕上げることでナチュラルで上品な雰囲気を演出します。

金属サイディング



一般鉄部・付帯部



※写真はイメージです。



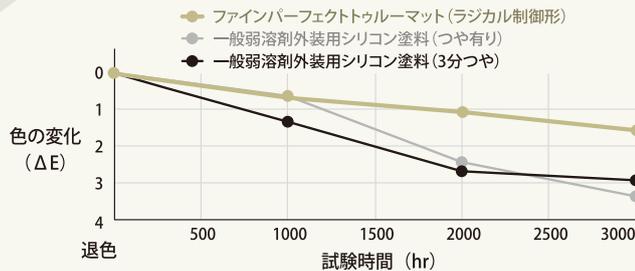
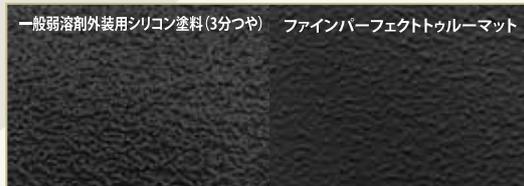
## “6つの特長”で、外壁を美しく守ります

### 1. 真のつや消し

ファインパーフェクトトゥルーマットはわずかなつやも残らない、“真のつや消し塗料”です。多くのつや消し塗料は、つや有りの塗料をベースに作られるため、どうしてもわずかなつやが残りますが、ファインパーフェクトトゥルーマットはイチからつや消し塗料として開発。緻密な塗膜構造でいわゆる「奥つや」と呼ばれるわずかなつやも残りません。

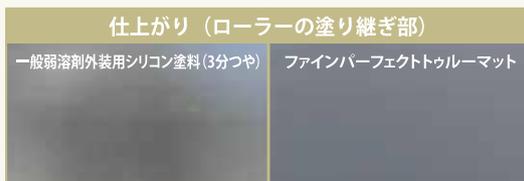
### 2. 優れた耐候性

当社が業界に先駆けて開発した「ラジカル制御技術」を採用。紫外線による塗膜劣化を防ぎ、従来のシリコングレードを超える高耐候性を実現します。色の変化が起こりにくく、きれいな外観を長く維持します。



### 3. むらになりにくい

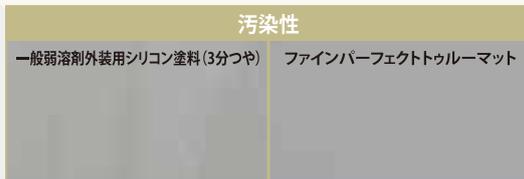
わずかにつやがある塗膜の場合、ローラー跡が「つやむら」として残ることがありますが、完全なつや消しにすることで吸い込み差による「つやむら」を軽減。仕上がりの良さに繋がります。



試験条件：平滑面に中毛ローラー塗装 (各塗料 10% 希釈)

### 4. 汚れが付きにくい

つや消し塗料は表面に細かい凹凸があるため、汚れが付きやすいと思われがちですが、ファインパーフェクトトゥルーマットは汚れが付きにくく、外壁を美しく保ちます。



試験条件：屋外暴露 6 か月後 (東京)

### 5. 防藻・防かび

防藻・防かび機能で、藻やかびの発生を抑制し美観を維持します。



### 6. 幅広い下地適性

下塗りを変えることで幅広い素材への塗装が可能です。



#### 塗料性状・荷姿

塗料名	色相	つや	容量
ニッペ ファインパーフェクトトゥルーマット	各色	つや消し	15kg, 3kg

#### 適用下塗り塗料・適用下地

	適用下塗り塗料	適用下地
内外壁 付帯部	パーフェクトフィラー パーフェクトサーフ ファイン浸透シーラー	●モルタル面 ●コンクリート面 ●窯業系サイディングボード ●ALCパネル面 ●各種旧塗膜の上
	ファインパーフェクトシーラー 1液ファインパーフェクトシーラー	●無機やフッ素下地の高意匠サイディングボード (従来のモルタル、コンクリート面などにも塗装できます)
	パーフェクトプライマー ハイボンファイプライマーII 1液ハイボンファイデクロ	●付帯金属面 ●FRP ●木部 ●金属パネル外壁 ●亜鉛めっき ●アルミ ●各種旧塗膜の上

※ 弾性スタッコや弾性リシンは適用できません。 ※ アンダーフィラー弾性エクセルおよび弾性系下塗りはご使用いただけません。 ※ 水性カオチンシーラーおよび水性パーフェクトシーラーはご使用いただけません。

#### 乾燥時間

	5~10°C	23°C	30°C
塗り重ね乾燥	8時間以上	4時間以上	2時間以上

## 標準塗装仕様(塗り替え)

### ●モルタル面、コンクリート面の塗り替えなど

仕様	塗装工程	塗料名	塗り回数	使用量 (kg/m <sup>2</sup> /回)	塗り重ね乾燥時間 (23°C)	希釈剤	希釈率 (%)	塗装方法
微弾性仕様	下地調整	膨れたり、割れたり、浮いている劣化塗膜は、周辺を含め入念に除去する。ごみ、砂じん、油脂などの付着物をワイヤーブラシ、皮すき、サンドペーパー、ウエスなどで除去し、乾燥した清浄面とする。釘頭のさびはサンドペーパー、研磨布などを用いて除去し、さび止め塗料で補修塗る。						
	下塗り	パーフェクトフィラー	1	0.20~0.45 0.50~0.90	4時間以上	水道水	3~8 1~5 2~5	ウールローラー 砂骨ローラー タイルガン
	上塗り	ファインパーフェクトウルマツ	2	0.13~0.17	4時間以上	塗料用シンナーA	5~15	はけ・ウールローラー・エアレススプレー

### ●サイディングボード、ALCパネル面の塗り替えなど

塗装工程	塗料名	塗り回数	使用量 (kg/m <sup>2</sup> /回)	塗り重ね乾燥時間 (23°C)	希釈剤	希釈率 (%)	塗装方法
下地調整	下地改修処理が必要な場合は、下地調整結果に基づいて、塗装工事前に実施する。下地処理の際は、ほこり、汚れを除去した後、サンドペーパー、ウエスなどで素地を調整する。						
下塗り	パーフェクトサーフ	1	0.20~0.40	3時間以上	水道水	2~5	はけ・ウールローラー
上塗り	ファインパーフェクトウルマツ	2	0.13~0.17	4時間以上	塗料用シンナーA	5~15	はけ・ウールローラー・エアレススプレー

### ●一般鉄部、金属サイディングボード面

塗装工程	塗料名	塗り回数	使用量 (kg/m <sup>2</sup> /回)	塗り重ね乾燥時間 (23°C)	希釈剤	希釈率 (%)	塗装方法
下地調整	膨れたり、割れたり、浮いている劣化塗膜は、周辺部を含め入念に除去する。さびは電動工具やサンドペーパー・研磨布などを用いて除去し、清掃する。						
下塗り	パーフェクトプライマー	1	0.14~0.16 0.16~0.18	4時間以上7日以内	塗料用シンナーA	0~5	はけ・ウールローラー エアレススプレー
上塗り	ファインパーフェクトウルマツ	2	0.13~0.17	4時間以上	塗料用シンナーA	5~15	はけ・ウールローラー・エアレススプレー

※下塗り(さび止め)にはエスパワーンエース、ハイボン20デコ、1液ハイボンファインデコ、速乾PEヘルゴンエコ、ハイボンファインプライマーIIも使用できます。

## 施工上の要点と注意事項 ※詳細な内容については、各製品の製品使用説明書などにてご確認ください。

- 表面を擦るとつやが上がる等、外観が損なわれる場合がありますのでご注意ください。
- 蓄熱されやすい建材(軽量モルタル、ALC、窯業サイディング、発泡ウレタン使用建材など)を使用した「高断熱型外壁」で、旧塗膜が弾性リシン、弾性スタック、アクリルトップなどの場合、塗り替え段階ですでに旧塗膜が膨れていることがあります。そのまま塗装すると膨れがさらに拡大する可能性がありますので、完全に除去してください。また「高断熱型外壁」に塗装する場合は、蓄熱、水分、下地の状態、塗装環境など複数の条件が重なることで、建材の変形、塗膜の膨れ、はく離が生じることがありますので、最寄の営業所などにご相談ください。
- 塗装場所の気温が5°C未満、もしくは湿度85%以上である場合、または換気が十分でない結露が考えられる場合、塗装は避けてください。
- 鉄部には直接塗装できません。あらかじめ、さび止め塗料を塗っておく必要があります。
- 5日以内の塗り残りは、継ぎ目が発生しやすいので素早く行ってください。
- 6.つや調整品では、塗り継ぎや補修でつやむらが出やすいので、面を切って通して塗装してください。
- 7.過剰希釈をすると本来のつやが発現しないおそれがありますので、規定の希釈量をまもってください。
- 8.つや調整品は被塗物の形状、素地の状態、膜厚、色相、塗り重ね乾燥時間などにより、実際のつやと若干違って見える場合がありますので、事前に試し塗りを確認してください。
- 9.つや調整品は、使用中にも塗料液が分離しやすい場合がありますので、適宜かきはんしながらご使用ください。
- 10.防藻・防かび効果は、繁殖を抑制するものです。すでに繁殖している場合は、下地処理として除去および殺菌処理をしてから塗装してください。
- 11.被塗物の構造、部位、塗装仕上げ形状、環境条件などの影響で、本来の低汚染機能が発現されない場合があります。
- 12.著しい汚染が発生しそうな箇所には、状況に応じてニッケルスタコートオーバーコート剤として塗装することで汚染を軽減することができま。
- 13.溶剤系塗料のため、室内での塗装は必ず換気をしてください。また、外部での塗装においても、換気口・空気取入口などに養生を行い、溶剤蒸気が室内に入らないように注意してください。居住者への配慮をお願いします。
- 14.所定のシンナー以外を使用したり、薄めすぎるとつやや色相、かぶりなどがよくなる原因になりますので、必ず所定のシンナーおよび希釈率をまもってください。
- 15.異なる色相を塗り重ねる場合(例:1回目の上塗りを塗装してから、別な色相でラインや帯などを塗装する場合など)2回目の上塗りが1回目の上塗りを覆ってラインや帯などが変色(ブリードにより)する場合がありますのでご注意ください。
- 16.硬化が不十分な場合は、シンナーで再溶解する場合があります。
- 17.旧塗膜に発生した藻・かびは、洗浄などで必ず除去し、清浄面としてください。付着阻害をおこすおそれがあります。
- 18.内部塗替えにおいて旧塗膜がSOP、FEなどの油性系の場合、研磨りを行ってください。下地処理が不十分な場合は、塗膜は十分な原因となります。
- 19.既存塗膜のはく離箇所は、既存塗膜の塗装仕様でパターン合わせを行ってください。
- 20.改修工事に使用する場合は、旧塗膜の種類によっては溶剤などの影響により、旧塗膜を傷し溶剤膨れや縮みなどの異常が発生する場合がありますので、旧塗膜の種類をご確認のうえ、塗装仕様をご検討ください。
- 21.風化面・吸込みの著しい下地では、ニッケル浸透性シーラー(新)、ニッケル1液ファインパーフェクトシーラー、ニッケルファインパーフェクトシーラー、ニッケルファイン浸透シーラーをご使用ください。なお、使用量は濡れ感が出るまでを目安とし、素地への吸込み箇所がある場合はその部分を打ち塗りにしてください。
- 22.シーリングの上には、劣化、ひび割れなどの損傷がある場合は、打ち直しをしてください。
- 23.やがて著しく付着している場合は、ウエスなどでやがてに水拭きして除去し被塗面を十分に乾燥させてから塗装してください。希釈を少なくし、1回目の塗装を十分乾燥(目安23°C、6時間)させてから2回目の塗装をすることでやがてにめがけが向上します。シミ、あく面は止まりにくい場合がありますので、ウエスなどで水拭きを行い、被塗面を十分乾燥させてから塗装してください。
- 24.素地表面のアルカリ度はpH10以下、表面含水率は10%以下(ケツ科社製CH-2型で測定した場合)、または5%以下(ケツ科社製Hi 500シリーズ;コンクリートレンジで測定した場合)の条件で塗装してください。
- 25.素地の乾燥は十分にしてください。
- 26.表面のごみ、ほこり、エプロレッセンス、レイタンスなどは除去し、目違い、ジャンカ、コールドジョイントなどは、樹脂入りセメントモルタルで平滑にしてください。
- 27.ALC面、多孔質下地、コンクリートブロック面など外部の素地において巣穴や段差などがある場合は、樹脂入りセメント系下地調整材(ニッケル1材カチオンフィラー、ニッケル1材フィラー#200)などで処理してください(合成樹脂エマルジョンの併用は避けてください)。
- 28.内外壁の新設仕様の場合は、必ず下塗りシーラーを塗装してください。
- 29.材齢の若いコンクリートなどセメント成分が十分に硬化していない場合、エプロレッセンスが発生するおそれがありますので、溶剤系シーラーをご使用ください。
- 30.新設の押出成形セメント板、GRC板、フレキシブルボードなどは、下塗り材としてニッケル浸透性シーラー(新)、ニッケル1液ファインパーフェクトシーラー、ニッケルファイン浸透シーラーをお使いください。
- 31.塗装直後から頻りに人が触れるようなドアの一部や手すりなどでは、油脂の影響により塗膜表面の軟化が起こるおそれがあります。必要に応じて保護プレートなどで接触防止を行ってください。
- 32.カウチン、陳列棚、ベンチ、床面などものが常置されるような場所には跡がつくおそれがありますので塗装しないうでください。
- 33.屋外の塗装で降雨、降雪のおそれがある場合、および強風時は塗装を避けてください。
- 34.塗装時および塗装後に密閉しますと乾燥が遅れますので、換気を十分に行ってください。
- 35.塗装時および塗料の取り扱いは、換気を十分にを行い、火気厳禁にしてください。
- 36.飛散防止のため必ず養生を行ってください。
- 37.シーリング面への塗装は、塗膜の汚染、はく離、収縮割れなどの不具合を起こすことがありますので行わないでください。やむを得ず行う場合は、シーリング材が完全に硬化した後に行うものとし、塗り重ね適合性を確認し、必要なら処理を行ってください。また、ニッケルフリードオフプライマーを下塗りすることで、可塑剤移行による汚染の低減が図れますが、シーリング材の種類、使用条件などによりはく離、収縮割れが起こることがあります。
- 38.スチールドア枠回りなどシーリング材との接触が起こる部分への塗装は避けてください。可塑剤の移行などにより塗膜が軟化、はく離し、シーリング材の機能を損なう可能性があります。
- 39.笠木、天端など長時間水が滞留する箇所では塗膜の白化、膨れなどが発生する場合がありますので、養生シートの設置方法などに配慮し、換気を促してください。
- 40.薄めすぎは隠れ力不足、仕上がりが不良などが起こるため規定範囲を超えて希釈しないでください。
- 41.上塗りに冴えたイエロー、レッド、ブルー、グリーン系色相を使用する場合は、共色を下塗りしてから塗装してください。なお、特に冴えた色相では、共色を下塗りしてから塗装していただくことが望ましい場合があります。
- 42.調色には必ず当社専用の原色をお使いください。
- 43.濃彩や冴た原色の場合、塗膜を強く擦ると色落ちすることがあります。衣類など接触する可能性のある部位には使用しないでください。なお、状況により常時接触するような箇所を使用する場合は、ファインシリコンクリヤーを上塗りに塗装してください。クリヤーのローラー及び剛毛塗装、下塗り塗膜の再溶解や滲みが発生する場合には、スプレー塗装をしてください。
- 44.濃彩色を塗装する際には、つやむらが目立ちやすくなるおそれがありますので、事前に試し塗りをしてご確認の上、ご使用ください。
- 45.大面積の塗装では補修部分が目立つことがあります。使用塗料のロットは必ず控えておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法などの条件を同一にしてください。
- 46.はけ塗り仕上げやローラー仕上げが混在する場合、使用量、表面肌が異なるため若干の色相差が生まれます。はけ塗りの部分は希釈を少なくして塗装してください。
- 47.ローラー塗りの場合、ローラー目は同一方向に揃えるように仕上げてください。ローラー目により、色相や仕上がりが異なる場合があります。
- 48.塗装方法により色相が多少変化する場合があり、ローラー塗りはできる限り入り隅まで入れてください。
- 49.汚れ、さびなどにより補修塗料が必要な場合があります。使用塗料のロットは必ず控えておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法などの塗装条件を同一にしてください。
- 50.クロスの上の塗装は避けてください。
- 51.ローラー、はけなどは、ほかの塗料での塗装に使用すると、はじきなどが発生するおそれがありますので、十分に洗浄するか、専用でご使用ください。
- 52.可塑剤が多く含まれる塩ビクロス、塩ビソル鋼板、塩ビラミネート、プラスチック、ゴムバックシ、合成皮革などへの直接塗装はお避けください。また、これらの部材に塗膜が直接触れることがないようご注意ください。
- 53.平滑仕上げや鏡面仕上げの場合は、素材や素地の状態によって、吸込みや巣穴によるピンホール、凹凸などを防止するため、パテ工程や研磨工程が必要になる場合があります。
- 54.塗料は内容物が均一になるようによくかき混ぜてください。特につや調整品では、つや消し剤が沈降している場合がありますので、よくかき混ぜ機を用いて缶底の沈降物を十分にかき混ぜてください。
- 55.開封後は一度に使い切ってください。やむを得ず保管する場合は密栓してから冷暗所で保存し、速やかに使い切ってください。
- 56.開封後は皮張りしやすいので、表面にうすく希釈剤を張り、ふたをしておくと、皮張りを運くことができます。
- 57.塗料が付着した可燃物(ウエス、ダンボールなど)や塗料カス、スプレーダストなどは自然発火のおそれがあります。速やかに焼却処分するか、容器に入った水に浸して処理してください。
- 58.塗料漏洩の原因になりますので、保管・運搬時に容器を横倒しにしないでください。
- 59.常時、水が溜まる箇所は傾斜をとり、排水溝を設けるなどして、排水処理を行ってください。
- 60.被塗物が結露などで濡れている場合は塗装を避け、十分水分を除去してから塗装を実施してください。
- 61.内容物/容器を国際、国、都道府県又は市町村の規則に従って産業廃棄物として廃棄してください。
- 62.塗料、塗料容器、塗料を廃棄する際には、産業廃棄物として処理してください。容器、塗料具などを洗浄した排水は、そのまま地面や排水溝に流すと環境に悪影響を及ぼすおそれがありますので、排水処理場などの施設に持ち込むか、産業廃棄物処理業者に処理を依頼してください。

■本カタログ掲載商品の詳細な危険有害性情報や使用上の注意事項等については、安全データシート(SDS)をご確認ください。■本製品は日本国内での使用に限定し、輸出される場合は、事前に相談ください。

## 日本ペイント株式会社

北海道支店 ☎011-370-3101 近畿支店 ☎06-6455-9608  
 東北支店 ☎022-232-6711 中国支店 ☎082-281-2180  
 関東支店 ☎03-5479-3614 四国支店 ☎0877-56-2346  
 北関東信越支店 ☎03-5479-3614 九州支店 ☎092-751-9861  
 中部支店 ☎052-461-1960

- 本カタログの内容については予告なく変更することがありますので、あらかじめご了承ください。
- 本カタログ中の商品名、ロゴマークは、日本ペイントホールディングス株式会社または日本ペイント株式会社・その他の会社の、日本およびその他の国の登録商標または商標です。
- Copyright © 2024 NIPPON PAINT Co., Ltd. All rights reserved.
- 日本ペイントホームページ <https://www.nipponpaint.co.jp/>

カタログNo.  
 NP-C159  
 TY241210T  
 2024年12月現在